

★君往きて 今年も咲くか 酔ふよう 　★箏ひきし 君と聴きしは 風の盆  
 ★きらめく夏 置きて 往くのか 箏の君 　★笑顔咲く ありし日の眉間 胸に置く  
 ★大なるもの いそがせたまう 箏の君 　★もう会えぬ 悲しさこえて 会えたふしぎ

間もなく今年も8月は終わります。近年は「もうすぐ英法に連れていってもろた『風の盆』やな」と思う時期でした。実は、越中・八尾の「おわら風の盆」にどうしても行きたいと思っていたものの、心臓に疾患を持つ私にとって、坂道の続く街のために諦めていました。そんな時に英法君が「車イスを押したげる」と言ってくれて実現したからです。大勢の人混みをかきわけながら、坂の道を汗を拭きふき三味線と二胡の音を求めて各町の『夜ながし』を追ってくれたのです。その年に京都の『青山記念音楽館(パロックザール)』でのクリスマスコンサートが実現しました。その後も時々京都こ立ち寄ってくれて、私が世話になった病院の老健施設、障害者施設、老人サロン、等でボランティア演奏をしてくれたり「うたごえ居酒屋・はらし亭」にも参加してくれました。

一昨年九月には達者な先輩・仲間と京都八幡市浄泉寺の彼岸会において名利・浄瑠璃寺住職の御前で『浄瑠璃寺』を演奏してくれました。浄瑠璃寺住職の佐伯快勝師は「琴線にふれる見事な演奏」と感想を述べられていました。

今年の5月4日、娘(英法の従姉)の結婚を祝ってくれ 結婚披露宴では、妻が娘を想う言葉(句)に譜を付けてくれて歌ってくれました。



私の娘と英法はお互い一人っ子同士だったので幼少の頃から「ねーちゃん、ねーちゃん」と絡みつくようなに慕っていたことを思い出します。スキー、海水浴、岡山のおばーちゃん宅での思い出も一杯です。結婚式には本当に飲んでくれました。妻が娘に贈った句に譜をつけて歌ってくれましたが、妻も喜んでいました。『娘へ』と題を決め、披露宴のみんなの前で「もっと歌いこんで今後あちこちで演奏したい」とも言ってくれたのでした。衆知の酒宴好きでしたが、乾杯から一切箸もつけず真剣に演奏してくれました。演奏家として真摯な姿勢と「ねーちゃん」への真心をみた想いがありました。

6月5日、西京音楽祭に実行委員会からゲスト演奏を依頼され快く引受けてくれました。日頃は邦楽・馴染みのない街の歌好き合唱好き達の音楽祭でしたが「春の海」と「ふるさと」を編曲して(澤村さんの協力)奏でてください。誰もが耳慣れた曲で箏への親しみ感を持ってもらったうえで「鳥のように」を弾いてくれました。称賛の拍手が大きく鳴りました。私の隣に座っていた人はため息をつきながら「箏っていいものやねー。それにしても手の動きが美しく綺麗や」と呟かれています。私もその美しさに、これが『甥っ子か!』と感激しました。が『もう少し瘦せればもっと格好いいのに』などと欲目をもって観て聴いていたものでした。

また、実行委員会が演奏を依頼した理由のもう一つは、「うたごえ運動」の方々が東北の被災者と連帯する歌・『ふるさとの山影』(別掲)を是非とも箏の伴奏で会場全体シングアウトしたいという希望でした。これまた彼は澤村さんに協力してもらい立派に役目を果たしてくれました。尚、昨年の西京祭典で私は『言葉にできない』を歌いましたが、わざわざ伴奏に来てくれたのでした。



そのあと、会場近くの串カツ屋さんで娘夫婦も加わって元気よく色んなことを話しました。抱負も語ってくれました。音楽祭に持ち込んだCDが完売したことも気をよくしたのか、店のおかみさんが口をポカンと開けて眺める程の勢いで焼酎をあおっていたのを思い出します。そして娘が別れ際に諭しました。「飲みすぎ食べ過ぎ注意やで。体調に気を付けて、検査も」と。すると彼はあのいつもの素直な声で「うん」と返事を返していたのが耳に残ります。

実は、昨年私が重い病気になったとき何度も京都で途中下車して見舞ってくれました。「おっちゃん、おっちゃん」と言いながら肩をポンポンと叩く彼の大きな顔が目の前に表れビックリした時の事を思い出します。驚いているなか「おっちゃん、僕これで三回目やで」と言ってくれましたが、まだ、重篤な状態からやっと抜け出したものの、自分の状況が呑み込めないときのことでした。そんなとき『赤とんぼホール』でのコンサートのチラシを持ってきてくれたのでした。「ああ、そんなこともあったんやー」と入院前に確かに予定に入れた事実が記憶として蘇ったことで、我に帰った様な気がしました。自分には過去もあるぞ。自分で自分の記憶を失くしている期間があるぞということが気付いた瞬間でもありました。あの時から幻聴や幻覚からも少しずつ開放され、記憶も蘇っていったような気がしています。

「おっちゃん、5月に歌った、言葉にできない、が本当にならずによかった」と笑顔をみせてくれました。その後も病室にも家にも顔を覗かせてくれ赤とんぼホールでのコンサートが盛況だったとの土産話も持ってきてくれ、著名な共演者からの激励色紙なども持参してくれました。

退院後、暫くして彼のお気に入りの寿司屋で食事したあと「一曲だけ」とカラオケに行きました。播州室津で生まれ育ったママさんが経営する店ですが、彼が歌ってくれたのはピギンの『笑顔のまんま』でした。本当に一曲だけでした。

「人生、生きているだけで丸儲け」のフレーズ。彼の私への温みをもったまぶしい思いやりは、今後の私の人生を包んでくれるでしょう。それから、妻が私に前から時々「英法君のようなシャツを買えば?」とか「英法君は自分でよく考えて服を買っているんやろな」と言っていました。

冒頭の俳句は私の気持ちも入れて詠んだものです。今朝三輪の花が。今年庭の酔芙蓉が少し遅れています。我が家の『おわら風の盆』の花は英法君の満中陰(四十九日)法要あたりが満開になるかも知れませぬ。

父母の御挨拶に記されているように温かい愛情溢れる人達に囲まれ、担がれ、引き上げられた幸せな人だったと思います。残念ながら今生の縁は私にとっても短いものでした。しかし、彼はみんなの期待に応えるべく懸命に努力を重ね、『箏七星』仲間達と例年の記念コンサートを成功させ、且つ各地の立派なホールでの公演、名だたる方々とも共演させて貰い各種の重賞も授かりました。CDもDVDを発行出来た稀有な人生は誠に輝いた生涯だったと思います。人の悪口を發することなく、限られたいのち、短かったけれど見事に美しく生ききったのが利根英法だったのですね。英法君、ありがとう、お疲れ様でした。南無阿彌陀仏で遇いましょう。

華々しい舞台での演奏と併せて、音楽好きの人々との交流や邦楽の流布につとめた彼へ尊敬と紹介をこめて『ふるさとの山影』を記します。 ほみくん

## ふるさとの山影 (ジグーリ)

日本語詞 小林康浩

遠く遙かに 浮かぶ山影  
星のまたたき 青い雪明り  
ふるさとの山の その影懐かしい

広い山裾 桜の色が  
春の訪れ 淡く伝え来る  
ふるさとの山の その影懐かしい

木々の緑を 水面に映し  
川は流れる 田畑を潤し  
ふるさとの山の その影懐かしい

土に祈った 実りの秋を  
黄金の稲穂 叶えてざわめく  
ふるさとの山の その影懐かしい

山の頂き 雪の輝き  
人の営み 静かに見守る  
ふるさとの山の その影懐かしい

